

## 4 公園整備計画

### 4.1 計画対象範囲と施設配置計画

機能強化の計画対象範囲は、下図の赤枠内です。既存区域内の軟式野球場を含めた範囲を対象としている。また、前章で示した基本コンセプトをもとに各ゾーンに応じた施設を導入し、利用者の利便性や既存植栽の状況等を考慮し、以下のとおり施設を配置する。

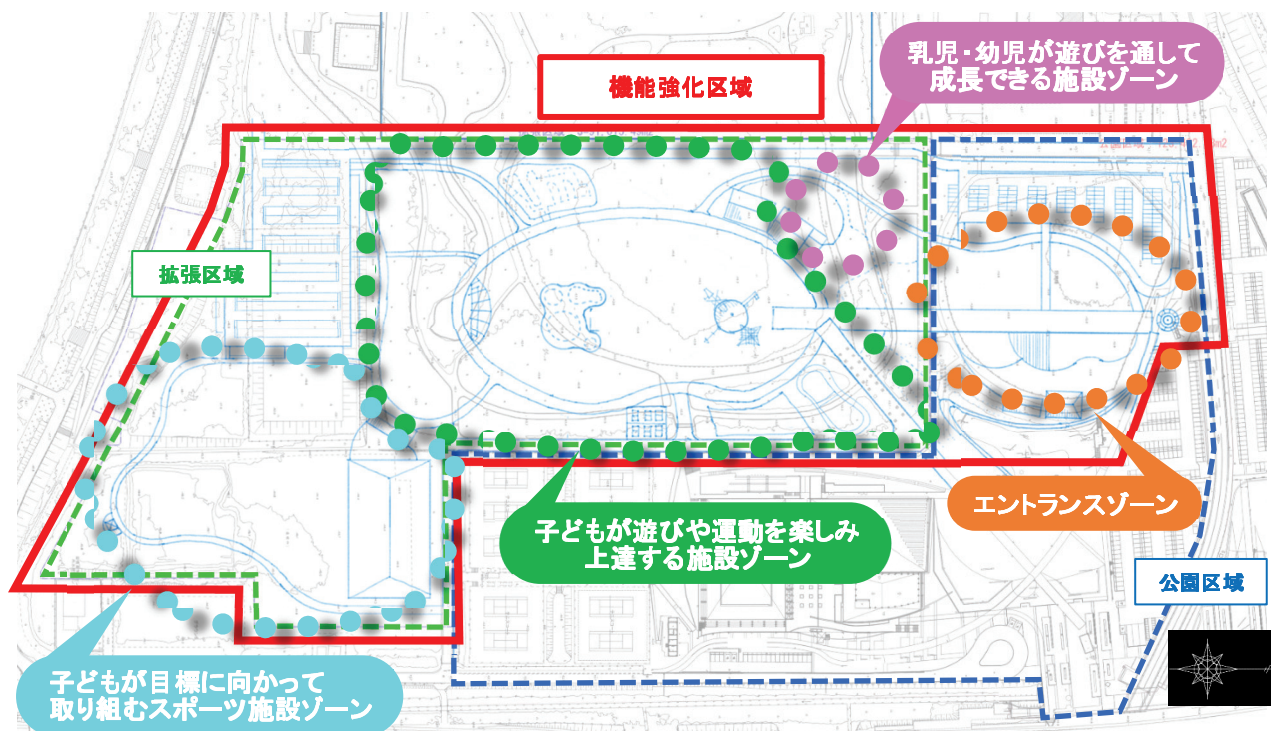


図 4.1 施設配置計画図

機能強化後のゾーン毎の新たな導入施設は、以下の内容で計画しており、施設毎に必要な機能を詳細に示す。

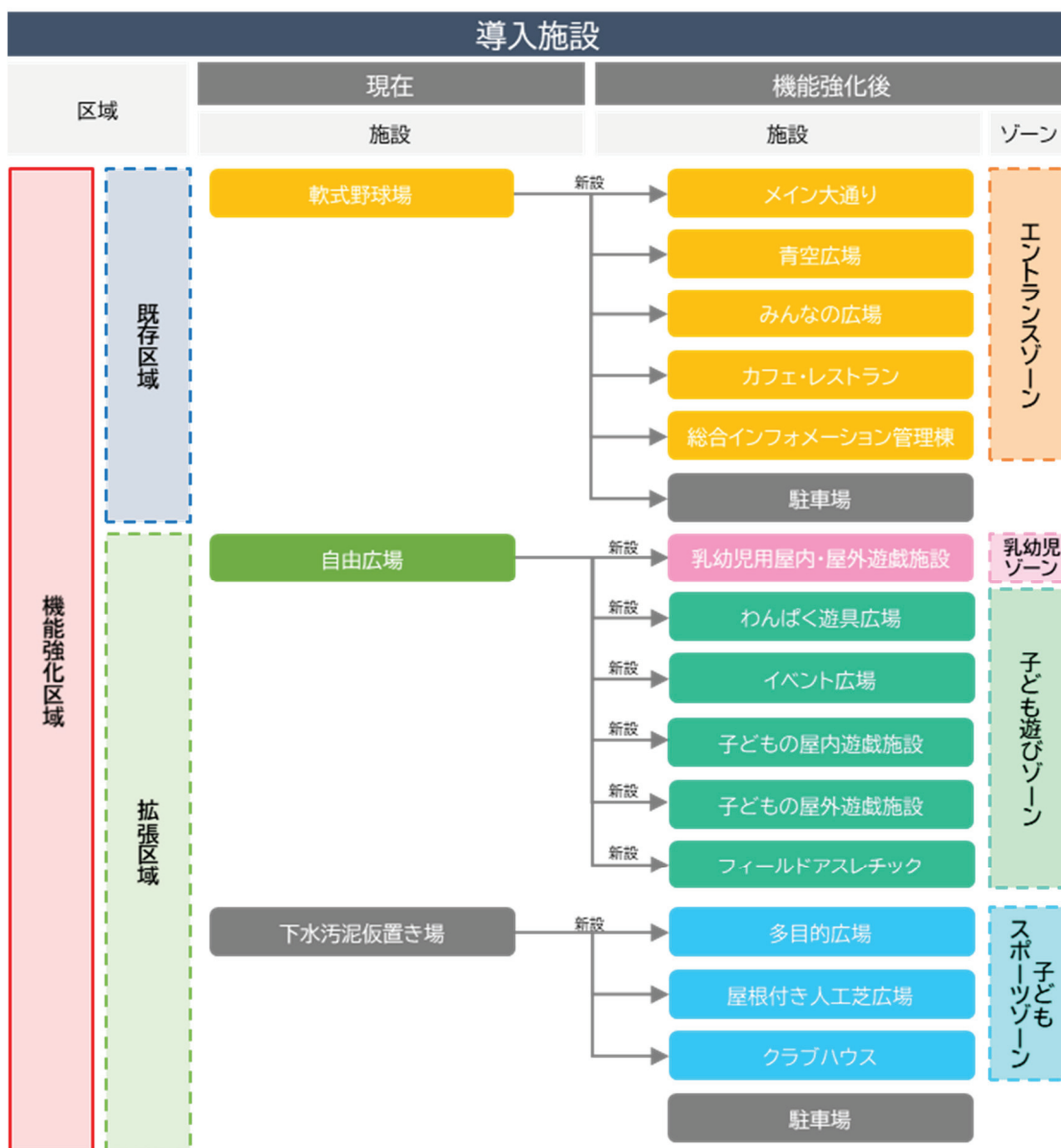


図 4.2 機能強化区域の導入施設イメージ

## (1) 乳児・幼児が遊びを通して成長できる施設ゾーン

## 乳幼児用屋内・屋外遊戯施設

- 天候に左右されない環境で、子どもが遊具やおもちゃを使って安全・安心に遊び・運動をすることができる屋内型の遊戯施設
- 水・砂・音・風・太陽の光など五感で自然を感じながら遊ぶことのできる屋外型の遊戯施設
- 子どもの遊びや知育を支えるプレイリーダーを配置し、発育段階に応じて想像力を刺激するような多種多様なプログラムを提供することで、遊びを通して体を動かす楽しさを知るきっかけとなる場として機能

## (2) 子どもが遊びや運動を楽しみ上達する施設ゾーン

## わんぱく遊具広場

- 大型複合遊具を複数設置した芝生空間
- 子どもがとんだり・はねたり・すべったりと、様々なからだの動きを促す遊具を設置し、自然の中で伸び伸びと遊ぶことができる空間

## イベント広場

- 日陰を提供する四阿やシェードなど休憩施設を適切に配置し、公園利用ニーズの充足と魅力向上につなげる
- 屋根付きの大型ステージでは、大規模イベントやヨガなどの運動プログラムを展開し、公園の賑わいを創出
- 四季をとおして様々な花を観賞できる空間

## 子どもの屋内遊戯施設

- 天候に左右されない環境で、ボルダリング、トランポリンなどバランス感覚を育む遊び施設
- 子どもの遊びや知育を支えるプレイリーダーを配置し、プログラムを提供

## 子どもの屋外遊戯施設

- 年齢や運動能力に応じてレベルを選択できるようなゾーン配置とし、運動技能の成長に応じてより高度な動きにチャレンジしていくことができる場として機能
- 既存植栽を活かしたハンモック広場、キックバイクコース、スケートパーク、フリーテニスコートなど

## フィールドアスレチック

- 既存樹林を活かし、自然の中で遊ぶ・体を動かす楽しさを感じることができる屋外型の大型フィールドアスレチック

## (3) 子どもが目標に向かって取り組むスポーツ施設ゾーン

## 多目的広場

- アウトドア体験や運動会必勝塾、ラグビー教室、サッカー教室などスポーツプログラムを展開する広場
- 学校の体育授業と地域のスポーツクラブの間の「運動スクール」として指導員がサポートしながら、年齢・能力・関心に応じたプログラムを提供することで、遊びの要素を取り入れつつ運動への苦手意識の克服や運動技能の上達に導く場として機能

## 屋根付き人工芝広場

- 屋根を付けることで、雨天時や強い日差しの中でもスポーツプログラム(サッカー、ラグビー教室など)を行うことができる環境を整備

## クラブハウス

- 各種の運動教室・プログラムやイベントの受付、ロッカー、シャワー室、医務室等のサービスを提供
- 運動やスポーツによって起こる怪我の予防だけでなく、普段の歩き方や走り方などの指導を行うスポーツクリニックの機能をもった施設の検討

## (4) エントランスゾーン

## メイン大通り

- 公園入口からドライ噴水や森を抜けると、大きなシンボルツリーが正面に出迎え、子ども遊びゾーンへと続く花壇のあるメイン通り
- 子どもがワクワクするような空間を生み出し、笑顔があふれる演出を展開する
- 子どもや地域住民が製作した花壇、エントランス付近にドライ噴水を設置することで、夏季の暑さをしのぐだけでなく、公園空間に視覚的な潤いの場を創出

## 青空広場

- 小規模イベントやキッチンカー、農産物直売など多彩な催しを展開し、公園の賑わいを感じる多目的広場

## みんなの広場

- 年齢や身体能力に関係なく誰もが分け隔てなく遊べるようなインクルーシブ遊具を使った遊びや運動ができる広場

## カフェ・レストラン

- 来園者が公園のオープンスペースとしての雰囲気を感じながら、食事やドリンクを楽しめる飲食施設

- オープンデッキからは、みんなの広場やドライ噴水で遊ぶ子どもを見ながら、大人は一服できる空間

#### 総合インフォメーション

- 公園全体の案内やイベント、プログラムなどの情報を来園者へ発信

#### (5) その他

##### 駐車場

- 本公園の主要なアクセスである車利用を支えるために、利用者数の増加を見込んだ必要台数を確保
- 自動車だけでなくバスでの団体利用も想定した台数を検討

## 4.2 動線計画

### 4.2.1 動線の考え方

車での利用動線は、北側県道からを基本とし、南端に新設する駐車場へは拡張区域の西側隣縁部に車路を設定する。

また、来園者のアクセス向上につながるよう、子ども遊びゾーン(わんぱく遊具広場)を中心に放射状に各ゾーンへの動線を配置する。園内利用としてジョギングやランニングの際に体力やニーズに合わせた距離を選択できるルートを設定するとともに、主動線のほかに、樹林内に散策路を整備し森林浴をしながらのウォーキングや自然観察などができるようにする。

公園内を管理車両や緊急車両が通行できるよう道路幅員は 4m 以上を確保する。また、新たに川西町(南側)から公園内にアクセスできる動線を検討する。

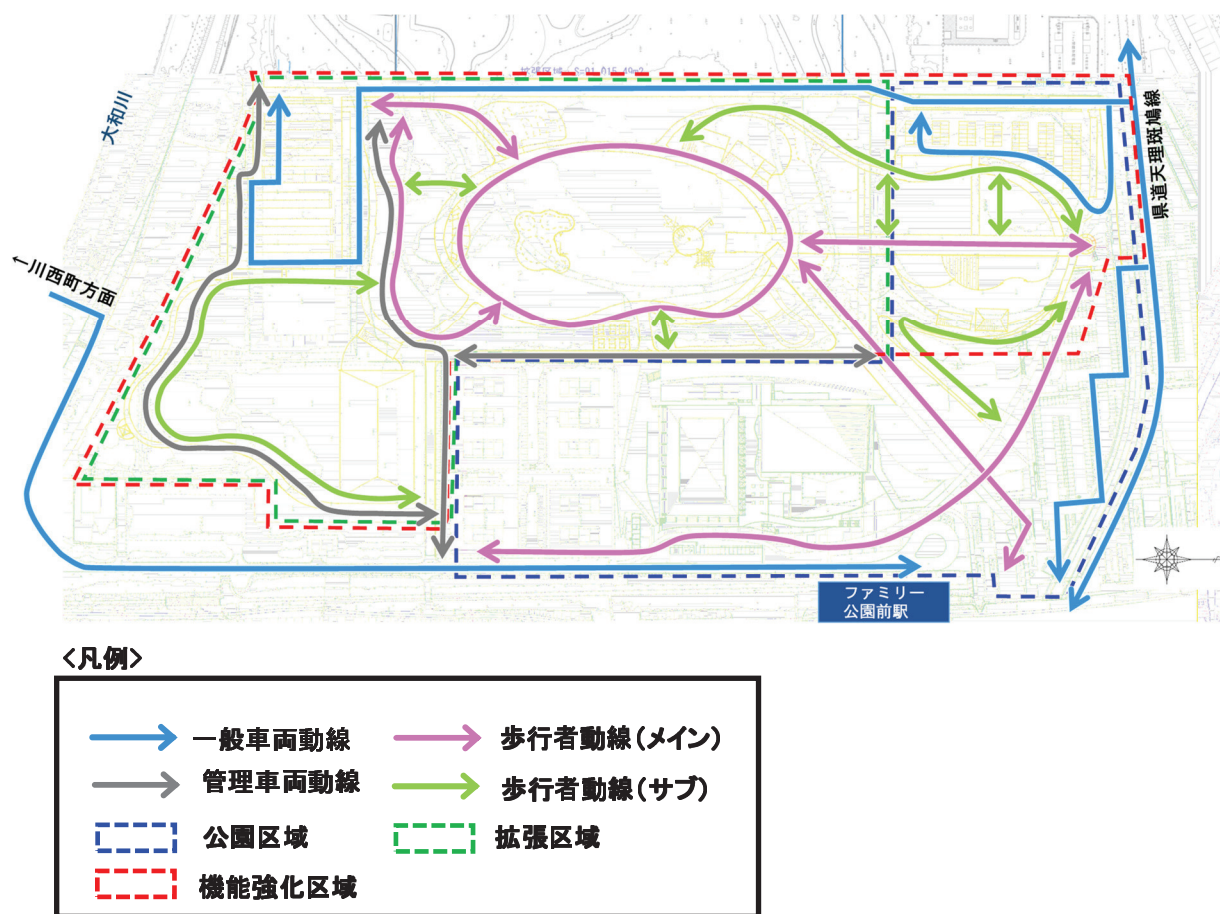


図 4.3 動線計画図

## 4.3 植栽計画

### 4.3.1 植栽の考え方

下図に示す拡張区域の部分については、生育の良い樹木が繁茂している。

公園整備に伴う樹木伐採は必要最低限に抑え、可能な限り生育状態の良い樹木を保全し、その環境を活かした場となるよう、施設配置計画との整合・調整を進める。

また、新たに植栽する樹木についても、誰もが自然に触れあい、楽しめる公園となることに配慮した樹種の選定及び配置を検討する。



図 4.4 既存植栽を活かすエリア